



真心と思いやり



国	籍	フィリピン
職	種	とび
実習実施者		株式会社河建
監理団体		協同組合 J&J 田原

キロス エリック ララタ
QUIROS ERIC LALATA

私は家族と国のために、技能実習生として4年前にフィリピンから日本にやって来ました。今年の9月にフィリピンに帰ります。家族に会えるのが、今からとても楽しみです。日本を離れるのは少し寂しいです。日本では楽しい思い出がいっぱいあり、沢山勉強もしました。

社長さんは、私たち研修生を食事に連れて行ってくれます。そして、お腹いっぱい食べさせてくれます。その時「沢山食べて、一生懸命仕事をしなさい。一生懸命仕事をして、沢山お金を稼ぎなさい。そして、無駄遣いをしないように」と言います。厳しくも温かく接してくれます。最初は他人の私たちに何でこんなに親身になってくれるのか分かりませんでした。そして、仕事以外にも、色々なことを教えてもらいました。

とても心に残っていることは、人が生きていくのに一番大切なものは「忠恕」だと教えてくれました。今までに聞いたことのない言葉でしたが、忠恕とは元々中国の言葉で、日本語に言いかえると「真心と思いやり」という意味だそうです。

真心と思いやりがなければ、仕事を正しい手

順で進めても意味はありません。真心と思いやりがなければ、表面上は正しいあいさつをしていても、むなしいものになってしまうと教えてもらいました。このことは、経営者の考え方を言っているそうですが、私は私たちにも同じことが言えると思いました。

社長さんは私たちに、私たちは子供たちに様々なことを伝えます。しかし、その根本に真心と思いやりを教えなければ、全てむなしいものになってしまいます。私がきちんとされていても、ずるい人間ではどうしようもありません。勉強だけができて、人を思いやれないような人間ではどうしようもありません。そして、一番大切な真心と思いやりを教えるためには、教える本人がそうでなければなりません。教える本人が、身をもって手本を示さなければなりません。

権力的立場にあぐらをかき、上から目線で子供を叱り続けるような親や先生は、子供に真心と思いやりを教えることはできません。ですから、この言葉は、教え手である私たちがいつも頭に置くべき言葉なのだと思います。会社のトップの社長さんや、子供の親である私たちが、常に自分に投げかけるべき言葉なのです。一番大切なのは、「真心と思いやり」です。

私は日本に来て、一番大切なことを学びました。これからは、私が社長さんの様に、「真心と思いやり」を胸に、厳しくも温かく子供たちに接し、周りの人たちと過ごしていきたいと思っています。そして、日本という国で、大きく成長出来たことを誇りに思い、胸を張ってフィリピンに帰りたいと思います。